

創造的復興を踏まえて描く「くまもと」の未来 熊本市中心市街地グランドデザイン2050 概要

世界に拓く「城下町都市」くまもと

熊本経済同友会+熊本商工会議所

Google Earth の画像を加工



0. 構想の背景

- 熊本地震からの創造的復興の数々の取り組みやまちづくりの機運を「まちの理想」の実現につなげたい、そうした思いから熊本経済同友会と熊本商工会議所が中心となって、熊本市中心市街地のまちづくりの長期ビジョンについて討論を重ねてきた。その要点を社会的提案としてまとめたのがこの「熊本市中心市街地グランドデザイン2050」である。
- さて、熊本市中心市街地は、熊本城や城下町の広がりをもとに各時代が求める都市機能を充実させながら、九州中央の広域拠点の役割を果たしてきた。熊本城に代表されるくまもとの歴史や文化、阿蘇や天草などの大自然は、世界に誇れる地域の資産である。また、新鮮で旨い食材を生産する農漁村地域と近接している点も大きな魅力である。
- 一方、熊本市中心市街地は幾つかの中長期的困難にも直面している。
 - ① 熊本市や熊本県における人口減少、特に45歳以下人口の減少とそれに伴う深刻な人材不足や地域経済の縮退
 - ② 熊本城の被災と復旧事業の長期化、さらには城下町の建替えに伴う町の歴史的個性の希薄化
 - ③ 大規模改修や建替え、設備の大改修などが必要となる大規模施設の集積したエリアの存在
 - ④ 駐車場や空きビルなど中長期的には土地利用の空洞化が見込まれる土地の広がり
 などである
- 熊本市中心市街地のグランドデザインを描くにあたっては、想定されるこれらの困難に対処するとともに、先述の優れた特質や九州における地理的条件、熊本地震の経験や教訓と創造的復興の取り組み、さらには近年加速化しつつある経済社会や技術の変化なども視野に入れながら討論を進めることになった（詳細は2枚目参照）

1. 世界に拓く『城下町都市』くまもとが目指すところ

● 熊本市中心市街地は、世界に誇る熊本城を始めとする、地域の歴史、文化、自然の魅力を活かすと共に、若い世代が生き生きと活動する未来標準の生活基盤を整えることで、国内はもとより世界からも注目され親しまれる多文化交流の都市、「世界に拓く『城下町都市』」となることを目指す。その実現に向け、熊本城を要とする城下町の基盤の上に、場所ごとの特性を踏まえながら次の4タイプのまちを積み重ねていく。

- 都市像1 国内はもとより世界から多数の人々が来訪し、観光や経済・文化交流、さらには滞在自体を楽しむことができるまち
- 都市像2 商業や業務などの都市活動に加え、観光サービスを通して熊本経済をリードすると共に、次の時代を拓くビジネスや人材を育てることができるまち

- 都市像3 熊本市民はもとより広域の人々が集い、上質の都市サービスを気軽に享受することができるまち
- 都市像4 若者や高齢者、共働き世帯や留学生など、都市サービスや働く場への近さを求める人々が集まり、多様なスタイルで暮らしを楽しみ、生きがいを得ることができるまち

図1-1 中心となる構想検討対象エリア
(熊本市中心市街地活性化基本計画区域の415ha)

熊本城地区

築城400年を迎えた熊本城を中心に多くの文化施設が立地。貴重な歴史遺産であると同時に都市型観光の拠点としての役割を担う。

熊本駅周辺地区

鉄道による熊本の玄関口。周辺の土地利用更新が遅れていたが、2011年春の九州新幹線鹿児島ルート全線開業に伴い大型事業が相次いで動き出し、街が急速に変化し始めた。

通町筋・桜町周辺地区

かつての武家地に対応。百万都市圏の商業・業務・文化・交流エリアの役割を担う。通町筋と桜町に位置する2つの交通拠点とこれを結ぶ上通・下通・新市街の3つのアーケード商店街が回遊の軸となっている。

新町古町地区

旧城下町の町人町に対応。夜間人口や事業者の転出でかつての賑わいが失われた。しかし、町割りが城下町の面影を伝える一方、明治大正建築も散見され独特の生活文化が感じられる。

図1-2 世界に拓く「城下町都市」くまもとが目指す都市の構造

歴史公園エリア

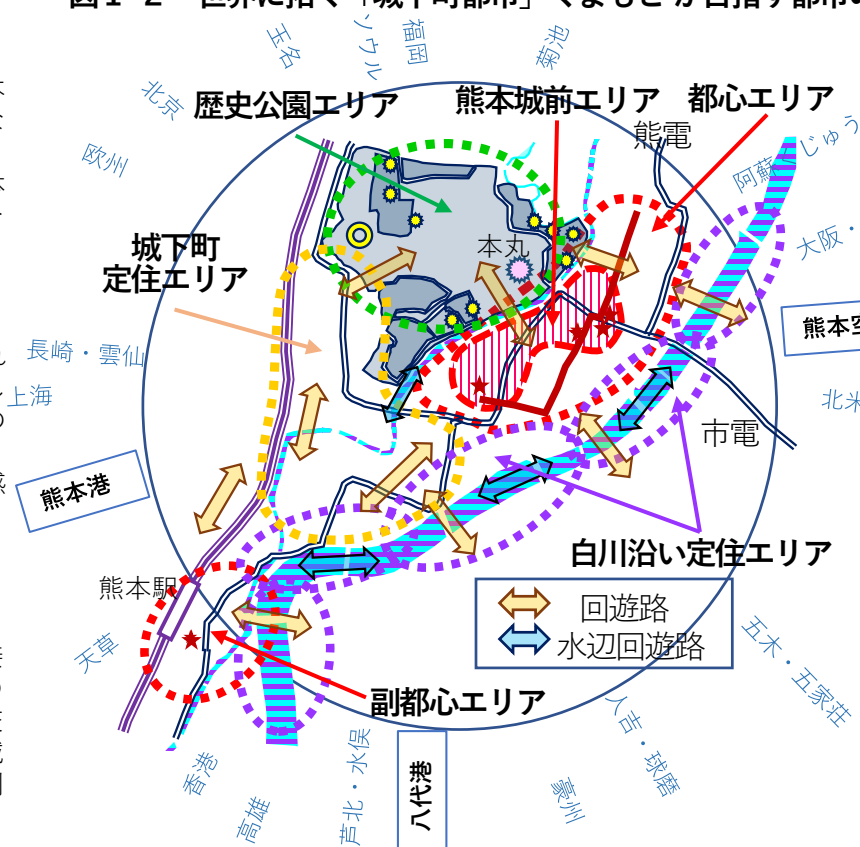
世界に誇る国指定特別史跡熊本城を回遊しながら、その壮大なスケール、400年の歴史や文化、震災復旧の取り組みなどを、体感的に学べる場としての役割を担う

城下町定住エリア

旧城下町の街割りの上に培われてきた生活や文化の厚みを楽しみながら暮らせる、まちなかの定住の場としての役割を担う。来訪者が「城下町文化」を体感する場ともなる

副都心エリア

熊本駅の存在はもとより今後、西環状道路経由で高速道網に接続するなど、熊本の陸の玄関の役割を担う。また、こうした交通アクセスの便を踏まえ、広域機能が集積した城下町都市の副都心としての役割を担う



都心エリア

既存の都市機能集積や広域交通アクセス、隣接する熊本城の存在感などを背景に、滞在型観光や多文化交流の場が集まった、城下町都市の中心としての役割を担う

熊本城前エリア

都心エリアの中でも本丸と対面する立地条件から、都市ブランドを牽引する都市機能や公共空間を備えた、城下町都市の新しい「顔」としての役割を担う

白川沿い定住エリア

白川の自然や眺めと都市の賑わいを手近に利用できる、まちなかの定住の場としての役割を担う。若者、留学生、共働き世帯などが多様なスタイルで暮らせる場となる

城下町都市回遊路

地元生活者の安全安心な移動を支えるのはもとよりである。国内外からの来訪者が城下町都市を回遊しながら、各所に纏わる歴史や物語や眺めを楽しむための手がかりとなる

2. グランドデザイン2050 検討の前提条件と提案の考え方

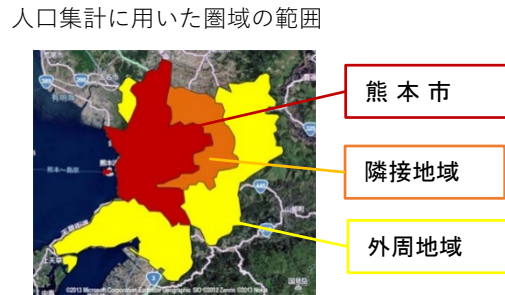
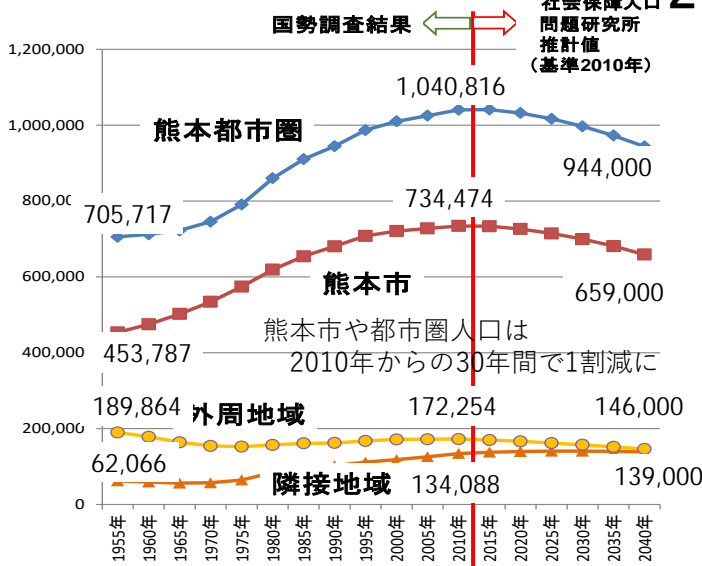


図2-1 熊本市及び周辺地域の人口の推移と将来推計

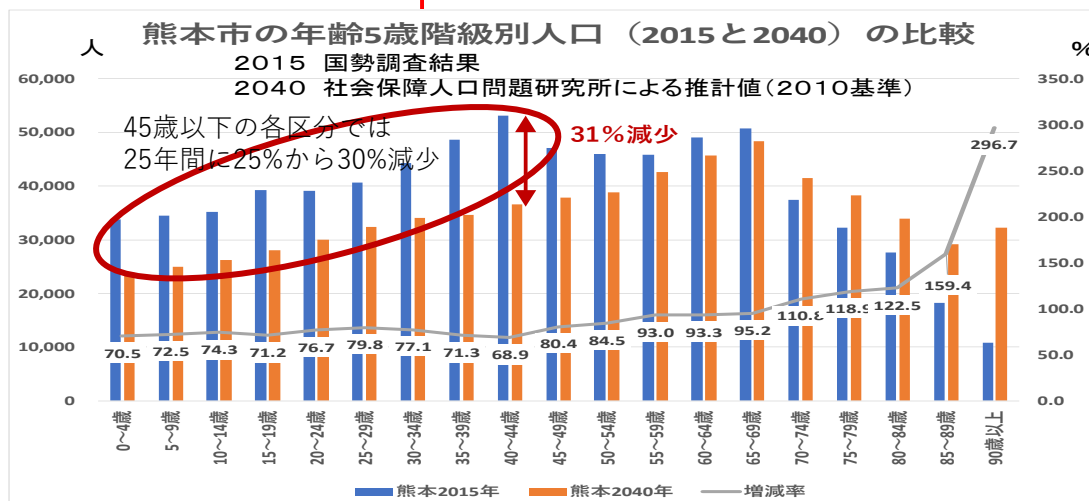


図2-2 熊本市の各年齢区分別人口(2015年と2040年の比較)

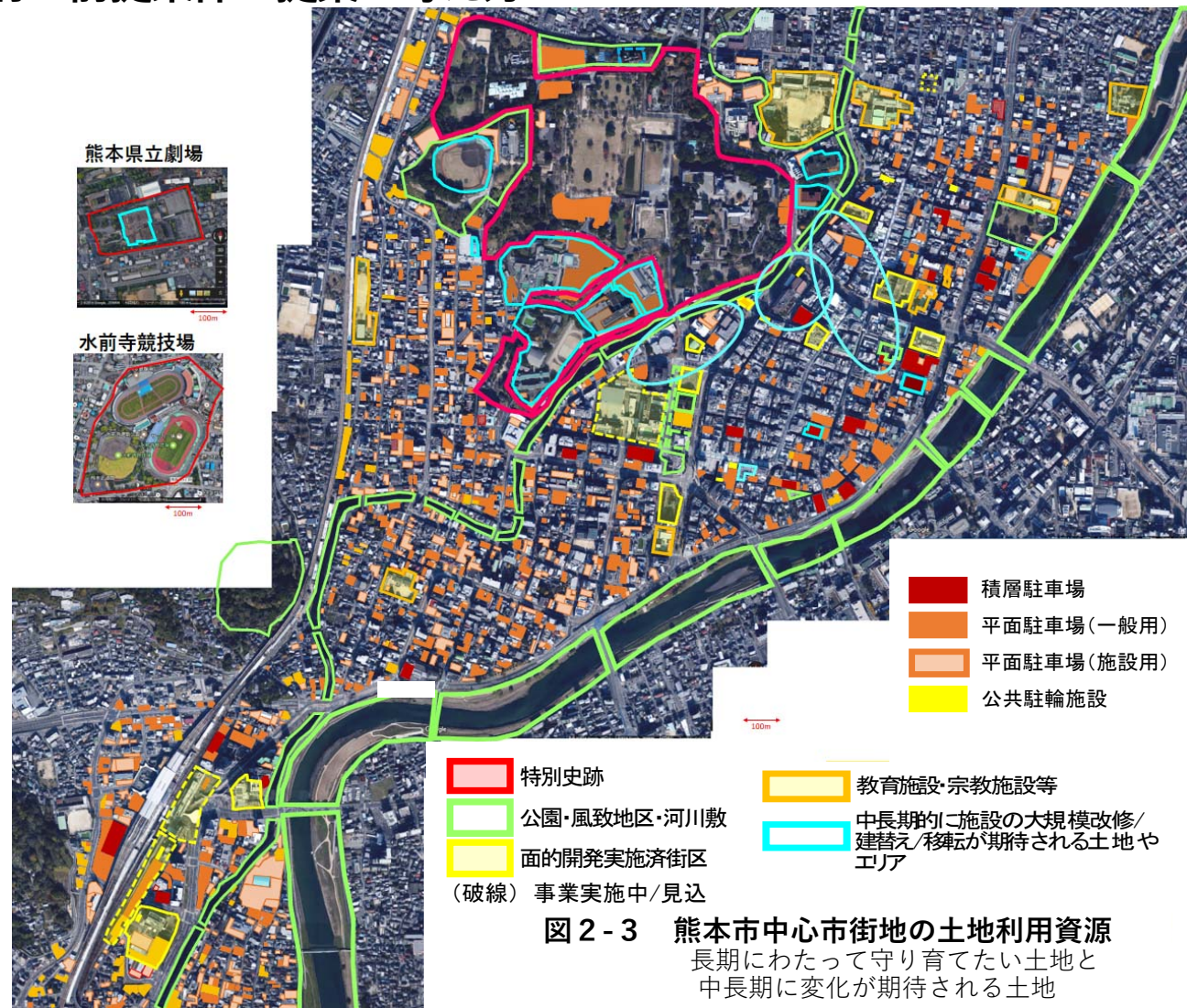


図2-3 熊本市中心市街地の土地利用資源

長期にわたって守り育てたい土地と
中長期的に変化が期待される土地

1) 想定した熊本市中心市街地の広域的役割

- 熊本活性化のエンジンとなる
(牽引する・先導する・拓く)
- 熊本や地方都市のモデルとなる
(先駆けとなる・先導する)
- 熊本や九州のショーケースとなる
(地域の窓口や仲介役となる・顔となる)

2) 熊本市中心市街地が直面する中長期的困難

- 人口、特に45歳以下人口の減少
図1 熊本市や都市圏人口が今後25年間で1割減に
図2 熊本市の45歳以下人口は今後25年で各区分25%から30%減に
- 人口減少や人手不足に伴う経済活動の縮退
地域総生産額の簡易な予測では人口に比例するとして予測
熊本市の中長期経済展望では、県民の可処分所得
(GDP+年金+交付税等)が、2010年の7兆2千億円から
2050年には5兆3千億円程度に減少すると推計
- 歴史文化遺産の被災や建替えに伴う城下町の個性の喪失
- 災害に脆弱な建物・エネルギー効率の低い建物群の集積
図3の水色枠で表示した建物や土地など
- 平面駐車場や空きビルなど休眠状態の土地が広がる可能性
図3の橙色や赤色で塗った土地の広がり

3) 熊本市中心市街地の強み弱みと想定される好機や脅威

活かすべき地域の強み

- 熊本城の存在と城下町由来の街の個性
- 九州における地理的中心性
(観光地や基幹的な都市との間の交流)
- 豊富な地下水と旨い食材供給地の存在
- 身近に利用できる、充実した都市サービスと良好な自然

活かすべき外部からの好機

- 海外旅行者の急増と観光産業及び周辺成長の余地
- 成長するアジアとの近接性(観光や輸出の拡大)
- 福岡への近接性・福岡経済の溢れ出し
- 創造的復興の機運と建物更新の進行
- カーシェアや自動運転の普及で無用化する駐車場用地の広がり
- 女性や高齢者の労働需要増と都心志向の生活スタイルの浸透

対策すべき地域の弱み

- 若者が魅力を感じる就業機会の不足
- 国際的知名度・ブランド力の低さ(くまモンが善戦)
- 間歇的に来襲する各種自然災害

対策すべき外部からの脅威

- 首都圏や福岡が発する経済や人材吸引力の拡大
- 小売業の立ち位置を脅かす通販の急成長
- 大手企業の地方都市オフィス再編縮小や、在宅勤務・遠隔勤務の増加によるオフィス需要自体の縮小

4) グランドデザイン2050における中長期的施策展開の考え方

- くまもとの経済社会的活力低下を食い止めるため、国内外からの交流人口の増加と、若い世代や外国人などの定住人口の誘導定着を図る
- 交流人口増加に向け、地域が保有する資源や九州における位置的条件を活かして国際的に注目される滞在型都市観光の強化に取り組む 都市像1>戦略目標1,2
- 定住人口の誘導定着に向け、観光産業及び関連産業の成長を促す、新しいビジネスの育成や起業を後押しする、創作活動を支援するなど、若者の就業機会や活躍の場の創出に取り組む 都市像2>戦略目標2,3
- また中心市街地が蓄積した都市サービス機能の強化と共に都市圏諸地域から中心市街地への移動利便性向上に取り組む 都市像3>戦略目標2,5
- さらに若者、共働き世帯、高齢者、留学生等、街なかの暮らしを求める人々が定住する場の整備にも取り組む 都市像4>戦略目標3,4,5
- 市街地の整備に際しては、震災復興に伴う多数の建替えや市街地の面的整備の動きを好機と捉え、市民的理解と協力を得ながら、災害に対して強靱で、人や環境に優しく快適な建物群や公共空間の創出に取り組む >戦略目標5
- 都市の個性や空間的魅力向上の観点から、熊本城や白川などの歴史・文化・自然資源やそれらに纏わる物語性を最大限活かすよう工夫する >戦略目標5
- 民間の大規模施設や公共施設等の建替えに際しては、事業の継続性や敷地の特性に配慮するなど戦略的再配置を誘導することで、都市サービスの高度化、経済活性化、地方税収拡大に取り組む >戦略目標5
- 空地や空き建物、長期的には需要減が想定される駐車場が集合するエリアの土地利用の高度化を図る >戦略目標4,5

世界に拓く「城下町都市」くまもと

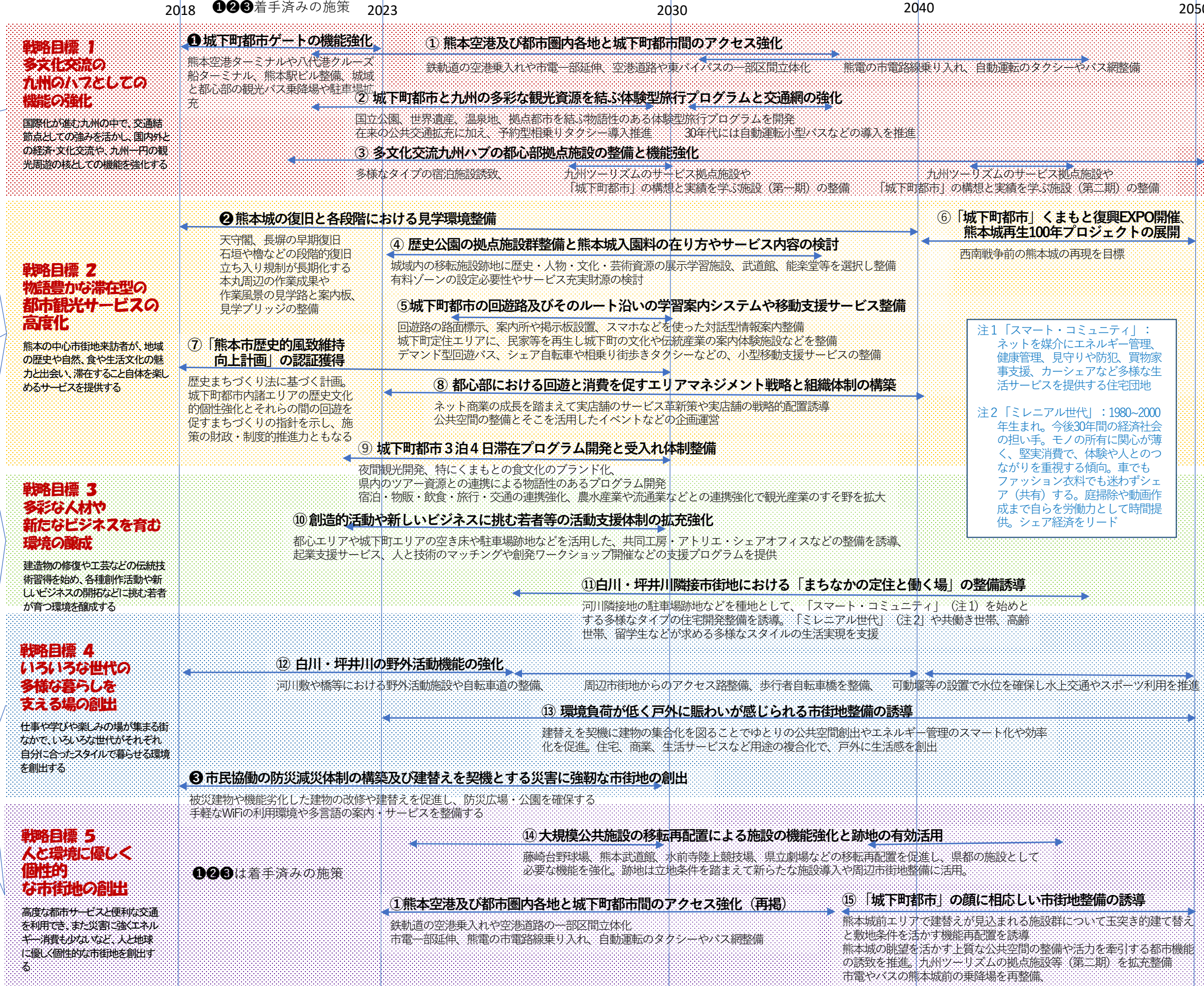
都市像 1
国内はもとより世界から多数の人々が来訪し、観光や経済・文化交流さらには滞在自体を楽しむことができるまち

都市像 2
商業や業務などの都市活動に加え、観光サービスを通して、熊本の経済をリードすると共に、次の時代を拓くビジネスや人材を育てることができるまち

都市像 3
熊本市はもとより熊本都市圏に住む人々が来訪し、そこに備った上質な都市サービスを楽しむことができるまち

都市像 4
若者や高齢者、共働き世帯や留学生など、都市サービスや働く場などへの近さを求める人々が集まり、多様なスタイルで暮らしを楽しむ、生きがいを得ることができるまち

3. 世界に拓く「城下町都市」の実現に向けた5つの戦略目標と15の主要施策



戦略目標 1
多文化交流の九州のハブとしての機能の強化
国際化が進む九州の中で、交通結節点としての強みを活かし、国内外との経済・文化交流や、九州一円の観光周遊の核としての機能を強化する

戦略目標 2
物語豊かな滞在型の都市観光サービスの高度化
熊本の中心市街地来訪者が、地域の歴史や自然、食や生活文化の魅力と出会い、滞在すること自体を楽しめるサービスを提供する

戦略目標 3
多彩な人材や新たなビジネスを育む環境の醸成
建造物の修復や工芸などの伝統技術習得を始め、各種創作活動や新しいビジネスの開拓などに挑む若者が育つ環境を醸成する

戦略目標 4
いろいろな世代の多様な暮らしを支える場の創出
仕事や学びや楽しみの場が集まる街なかで、いろいろな世代がそれぞれ自分に合ったスタイルで暮らせる環境を創出する

戦略目標 5
人と環境に優しく個性的な市街地の創出
高度な都市サービスと便利な交通を利用でき、また災害に強くエネルギー消費も少ないなど、人と地球に優しく個性的な市街地を創出する

2018 ①②③着手済みの施策 2023 2030 2040 2050

① 城下町都市ゲートの機能強化
熊本空港ターミナルや八代港クルーズ船ターミナル、熊本駅ビル整備、城域と都心部の観光バス乗降場や駐車場拡充

② 熊本城の復旧と各段階における見学環境整備
天守閣、長塀の早期復旧、石垣や櫓などの段階的復旧、立ち入り規制が長期化する本丸周辺の作業成果や作業風景の見学路と案内板、見学ブリッジの整備

③ 多文化交流九州ハブの都心部拠点施設の整備と機能強化
多様なタイプの宿泊施設誘致、九州ツーリズムのサービス拠点施設や「城下町都市」の構想と実績を学ぶ施設（第一期）の整備、「城下町都市」の構想と実績を学ぶ施設（第二期）の整備

④ 歴史公園の拠点施設群整備と熊本城入園料の在り方やサービス内容の検討
城域内の移転施設跡地に歴史・人物・文化・芸術資源の展示学習施設、武道館、能楽堂等を選択し整備、有料ゾーンの設定必要性やサービス充実財源の検討

⑤ 城下町都市の回遊路及びそのルート沿いの学習案内システムや移動支援サービス整備
回遊路の路面標示、案内所や掲示板設置、スマホなどを使った対話型情報案内整備、城下町定住エリアに、民家等を再生し城下町の文化や伝統産業の案内体験施設などを整備、デマンド型回遊バス、シェア自転車や相乗り街歩きタクシーなどの、小型移動支援サービスの整備

⑥ 「城下町都市」くまもと復興EXPO開催、熊本城再生100年プロジェクトの展開
西南戦争前の熊本城の再現を目標

⑦ 「熊本市歴史的風致維持向上計画」の認証獲得
歴史まちづくり法に基づく計画。城下町都市内諸エリアの歴史文化的個性強化とそれらの間の回遊を促すまちづくりの指針を示し、施策の財政・制度的推進力ともなる

⑧ 都心部における回遊と消費を促すエリアマネジメント戦略と組織体制の構築
ネット商業の成長を踏まえて実店舗のサービス革新策や実店舗の戦略的配置誘導、公共空間の整備とそこを活用したイベントなどの企画運営

⑨ 城下町都市3泊4日滞在プログラム開発と受入れ体制整備
夜間観光開発、特にくまもとの食文化のブランド化、県内のツアー資源との連携による物語性のあるプログラム開発、宿泊・物販・飲食・旅行・交通の連携強化、農水産業や流通業などとの連携強化で観光産業のすそ野を拡大

⑩ 創造的活動や新しいビジネスに挑む若者等の活動支援体制の拡充強化
都心エリアや城下町エリアの空き床や駐車場跡地などを活用した、共同工房・アトリエ・シェアオフィスなどの整備を誘導、起業支援サービス、人と技術のマッチングや創発ワークショップ開催などの支援プログラムを提供

⑪ 白川・坪井川隣接市街地における「まちなかの定住と働く場」の整備誘導
河川隣接地の駐車場跡地などを種地として、「スマート・コミュニティ」（注1）を始めとする多様なタイプの住宅開発整備を誘導。「ミレニアル世代」（注2）や共働き世帯、高齢世帯、留学生などが求める多様なスタイルの生活実現を支援

⑫ 白川・坪井川の野外活動機能の強化
河川敷や橋等における野外活動施設や自転車道の整備、周辺市街地からのアクセス路整備、歩行者自転車橋を整備、可動堰等の設置で水位を確保し水上交通やスポーツ利用を推進

⑬ 環境負荷が低く戸外に賑わいを感じられる市街地整備の誘導
建替えを契機に建物の集合化を図ることでのゆとりの公共空間創出やエネルギー管理のスマート化や効率化を促進。住宅、商業、生活サービスなど用途の複合化で、戸外に生活感を創出

⑭ 大規模公共施設の移転再配置による施設の機能強化と跡地の有効活用
藤崎山野球場、熊本武道館、水前寺陸上競技場、県立劇場などの移転再配置を促進し、県都の施設として必要な機能を強化。跡地は立地条件を踏まえて新たな施設導入や周辺市街地整備に活用。

⑮ 「城下町都市」の顔に相応しい市街地整備の誘導
熊本城前エリアで建替えが見込まれる施設群について玉突き的建て替えと敷地条件を活かす機能再配置を誘導、熊本城の眺望を活かす上質な公共空間の整備や活力を牽引する都市機能の誘致を推進。九州ツーリズムの拠点施設等（第二期）を拡充整備、市電やバスの熊本城前の乗降場を再整備、

①②③は着手済みの施策

注1 「スマート・コミュニティ」：
ネットを媒介にエネルギー管理、健康管理、見守りや防犯、買物家事支援、カーシェアなど多様な生活サービスを提供する住宅団地

注2 「ミレニアル世代」：1980~2000年生まれ。今後30年間の経済社会の担い手。モノの所有に関心が薄く、堅実消費で、体験や人とのつながりを重視する傾向。車でもファッション衣料でも迷わずシェア（共有）する。庭掃除や動画作成まで自らを労働力として時間提供。シェア経済をリード

歴史回廊整備プロジェクト

関連施策 ②④⑤⑦⑭

●プロジェクトの狙い

熊本城域は今後100年かけて西南戦争以前の姿に整備する。当面30年間は400年の歴史や文化、さらには20年にも及ぶ震災復旧の過程などを回遊しながら体感的に学べる場として整備する。

新町古町には、城下町の街割りや江戸・近代・現代と時代層の異なる生活や文化、食と職などの「城下町文化」を体感できる回遊の環境を整備する。

●主要な施策や事業の提案

+ 天守閣を早期に復旧する一方、20年にも及ぶ石垣や門や櫓などの復旧過程を見学できる環境を整備する②

+ 「熊本市歴史的風致維持向上計画」を策定し国の認証を得る⑦

●歴史まちづくり法に基づく計画。城下町都市内諸エリアの歴史文化的個性強化とそれらの間の回遊を促すまちづくりの指針を示す。施策の財政・制度的推進力ともなる

+ 熊本城域からの移転が進む施設用地を、熊本の歴史・文化・芸術の展示学習・体験施設などとして整備する。その一方熊本城入園料の在り方やサービスの内容を検討する④

- ・加藤・細川・武蔵の遺産や物語
- ・武道や武士道や肥後六花などの文化
- ・漱石・八雲の遺産と熊本の文化への貢献
- ・近世・近代の歴史における熊本の役割
- ・伝統技術と職人の力
- ・城の修復技術研修や技術体験
- ・富重寫真所の活躍と所蔵品、など

+ 藤崎台野球場を移転させ、跡地を熊本城域における敷地条件に相応しい形で再整備する⑭

+ 熊本城域はもとより新町古町の歴史文化的資源、さらには都心部に残された漱石や八雲の遺産などを巡る「城下町都市回遊路」を設定し、ARやVRなどを活用した学習案内システムを整備する⑤

- ・回遊路の路面標示、案内所や掲示板設置、スマホなどを使った対話型情報案内整備
- ・城下町定住エリアに、町家等を再生し城下町の文化や伝統産業の案内体験施設などを整備
- ・デマンド型回遊バス、シェア自転車や自動運転カートなどの、小型移動支援サービスの整備
- ・漱石・八雲の遺産を残し、文化を活かす

●AR（拡張現実）

・スマホ画面に眼前の風景を表示すると共にその風景の説明など補助情報を文字や画像で重ねて表示する技術

●VR（仮想現実）

・画像メガネなどを使って街やモノの立体的な姿を画像表示し、恰も画像世界に入り込んだかのような体験を提供する技術



復旧作業が続く熊本城本丸エリア



個性的な街並みを演出する新町や古町の建物群

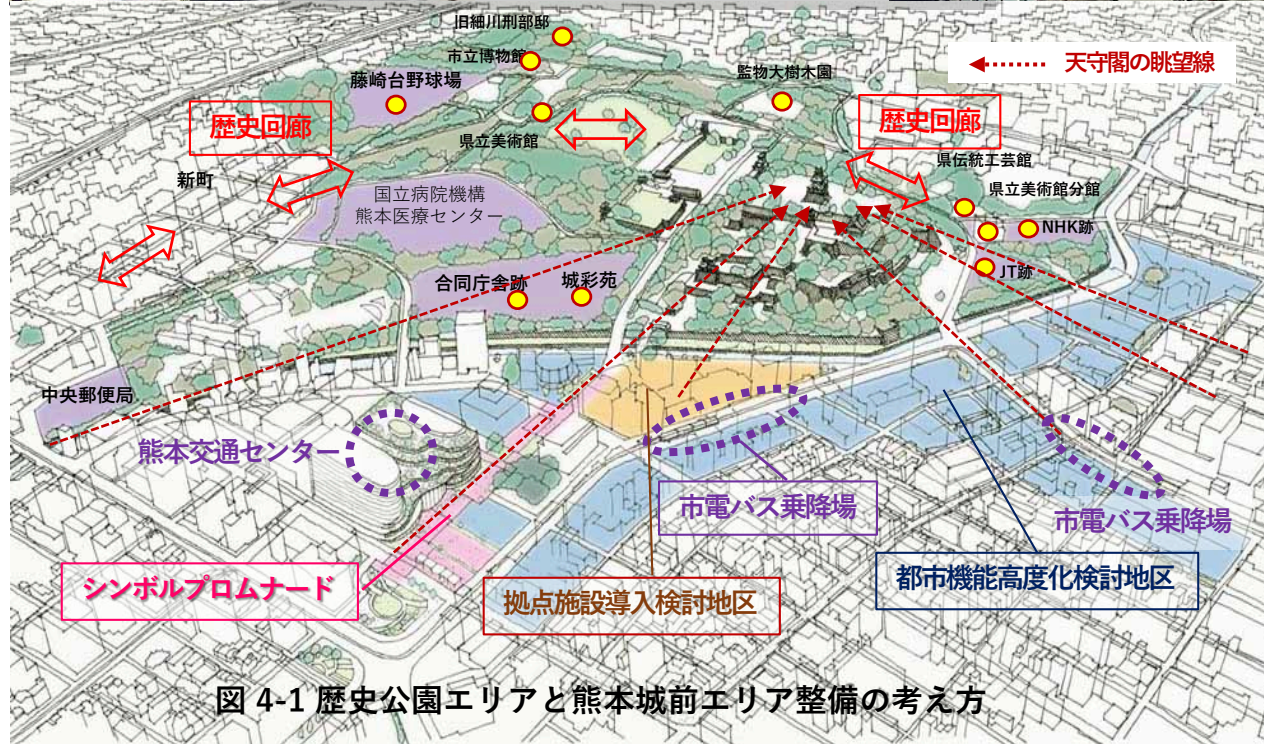
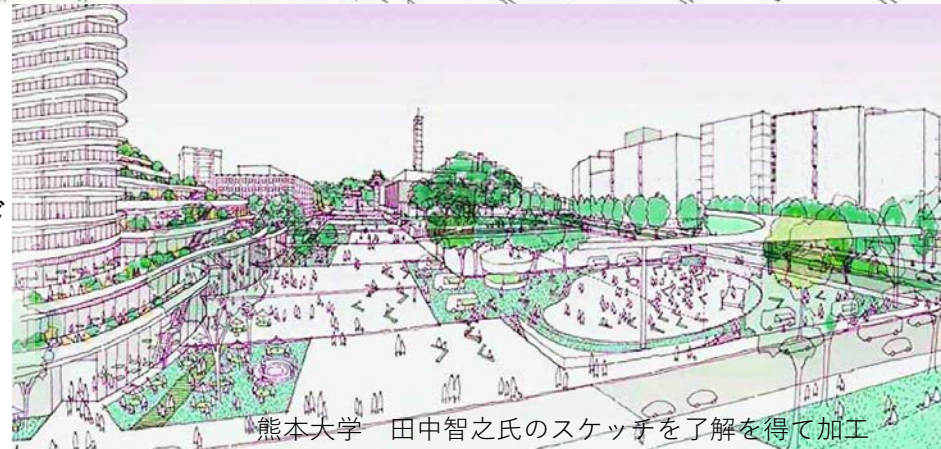


図 4-2 シンボルプロムナードから見た熊本城と熊本城前エリアの眺望イメージ



熊本大学 田中智之氏のスケッチを了解を得て加工

熊本城前エリア整備プロジェクト

関連施策 ③③⑤⑧⑬⑮

●プロジェクトの狙い

熊本城の東南に隣接するエリアを、世界に拓く「城下町都市」くまもとの「顔」に相応しい市街地として整える。すなわち導入される都市機能を高度化すると共に、都市景観の魅力を高めることにより、くまもと全体のブランド力向上につなげる。

●主要な施策や事業の提案

+ エリア内の大規模改修や建替が見込まれる建物群について、建替を計画的に誘導・調整しながら、敷地毎の立地特性を活かすように都市機能の再配置を図る。併せて、ホテルなど活力の牽引車となる施設の立地を誘導する⑮

+ 建替を契機に建物の集合化を図ることで、シンボルプロムナードや坪井川に連続する質の高い公共空間創出やエネルギー管理のスマート化・効率化を促進する⑬⑮

- ・熊本城本丸の建物群や長塀と対面する位置に風格の感じられる眺望を楽しめる場を設けると共に、地下水都市を象徴する親水広場を設ける。
- ・低層部に商業サービス施設を誘導することで、戸外に賑わいや生活感の創出を図る

+ 熊本城域への主要入り口の一つとして熊本城前の市電やバスの乗降場を安全で美しい施設に再整備する。また、そこから城域に至る歩行者動線やアーケード街に至る歩行者動線を想定し、それぞれ魅力的な回遊路となるよう公共空間の整備や沿道施設の調整誘導を進める⑮⑮

+ 九州ツーリズムのサービス拠点施設や「城下町都市」のまちづくりや創造的復興の実績を紹介する拠点施設を熊本城前エリアに整備する③

- ・早い段階で第一期の施設を他施設内に整備し、熊本城前エリアに独立施設として整備する

4. 世界に拓く「城下町都市」の実現に向けた7つの戦略プロジェクト



白川沿い定住エリア整備 プロジェクト

関連施策③⑩⑪⑫⑬



城下町都市回遊路の検討資料

- 主回遊路
- 副回遊路
- 補助回遊路
- 城域周遊路
- 旧街薩摩道
- 自転車路
- 主要交通路

滞在型都市観光強化プロジェクト

関連施策 ②③④⑤⑧⑨

●プロジェクトの狙い

白川の河川敷や橋などを都市内の優れた**野外活動エリア**として機能強化する。さらに兩岸の隣接エリアを、白川の**自然や美しい眺めと都市の賑わいの両方に近接した、多様なライフスタイルで暮らせる上質の「まちなか定住」の場**として再整備を促す。

●主要な施策や事業の提案

- + 白川の堤防や河川敷に**緑陰・野外活動広場・遊歩道・自転車道**などの整備と共に橋上や橋詰に**水辺の眺めを楽しむ場づくり**を誘導する ⑫
 - ・歩行者や自転車が周辺市街地から堤防上に容易に到達できる歩道橋などの整備
 - ・長期的に国道3号の自動車交通量が減少することを踏まえ、域内区間の歩行者環境を整備
 - ・可動堰などによる水位の確保を含め、白川や坪井川の水上交通やスポーツ利用の働きかけ
 - ・白川公園付近や河原町付近など道路橋の間隔が長い区間に、白川の兩岸を結ぶ歩行者・自転車専用橋の設置を働きかけ
- + 機能劣化した**建物の改修や集合建替えの促進**はもとより、**駐車場など長期的に利用休止が見込まれる土地も活用しながら、災害に強靱な市街地整備を誘導**する ③
 - ・防災広場や公園の創出、不燃耐震建造物への建替え

●Smart Community

- ・ネットを使い、エネルギー管理、健康管理・見守り・防犯・買い物家事支援・カーシェアなど、各種の生活サービスを地域で提供する住宅地団地。
- ミレニアル世代 (1980-2000年生れ)
 - ・労働力人口の5割を占める。モノの所有に関心が薄く堅実消費で、体験や人とのつながりを重視する。車でもファッションでも住居でも迷わずシェア (共有) する。庭掃除や動画作成まで自らを労働力として提供。シェア経済をリード。

- + **ミレニアル世代や共働き世帯、高齢世帯、大学生や外国人研究者など、まちなか志向の居住者が、それぞれ自分のスタイルで働きながら暮らせる「スマート・コミュニティ」のモデル事業を誘導**する ⑪⑬
 - ・家族用住宅、単身世帯用住宅、シェアハウス、長期滞在型ホテルなど、多様な形式の住居と共に、買物、食事、保育、家事支援、趣味やスポーツ施設などのコミュニティサービス (ビジネス) の場も併せて整備
- + **創造的活動や新しいビジネスに挑む若者等の活動をハード・ソフトの両面から支援する体制を重点的に強化**する ⑩
 - ・建物の空き床や駐車場跡地などを活用した、共同工房・アトリエ・シェアオフィスなどの整備を誘導
 - ・起業支援サービス、人と技術のマッチング、地元企業や地元社会が抱える課題解決に向けた創発ワークショップ開催など、各種支援プログラムを提供

●プロジェクトの狙い

九州の**観光周遊や文化交流の結節点としての機能**、さらには**滞在型都市観光地としての中心市街地のサービス機能を強化**すると共に、**県全体の観光産業の発展とそのすそ野の拡大**に貢献する。

●主要な施策や事業の提案

- + **九州一円の多彩な観光資源を結ぶ体験型旅行プログラムを開発**し、**少人数でも利用できる新しい手段による交通サービスを整備**する ②
 - ・国立公園、世界遺産、温泉地、拠点都市を結ぶテーマ性のある体験型旅行プログラムを開発
 - ・在来の公共交通拡充に加え、予約型相乗りタクシー導入、2030年代には自動運転小型バスなどの導入を想定
- + **多様なタイプの宿泊施設を整備**する ③
- + 「城下町都市」に**最低3泊4日は滞在したくなる体験学習型観光プログラムを開発し、受入れ体制を整備拡充**する ⑨
 - ・夜間観光プログラムの充実、くまもとの食文化のブランド化、
 - ・県内のツアー資源との連携による物語性のあるプログラム開発
 - ・宿泊・物販・飲食・旅行・交通の業際連携強化、農水産業や流通業などと連携したビジネスモデルの開発など観光産業のすそ野の拡大
- + 熊本城域から**移転が進む施設用地を、熊本の歴史・文化・芸術の展示学習・体験施設として整備**する ④ (再掲 歴史回廊整備プロジェクト参照)
- + **九州ツーリズムのサービス拠点施設や「城下町都市」のまちづくりや創造的復興の実績を紹介する拠点施設**を熊本城前エリアに整備する ③ (再掲 熊本城前エリア整備プロジェクト参照)
- + **通町筋、桜町、熊本駅周辺の交通結節点や商業集積相互、さらにはそれらと熊本城域をはじめとする城下町都市の魅力スポットを結ぶ「城下町都市回遊路」を設定し、それにそった回遊を助ける新しい交通手段や学習案内システムを整備**する ⑤
 - ・都心エリアと副都心エリアを結ぶ交通手段として新たにデマンド式シャトルバスを導入
 - ・そのほかのエリアにはシェア自転車や相乗り街歩きタクシーなどの小型移動支援サービス、白川や坪井川を利用した水上交通などを導入
- + **都心部における回遊と消費を促すエリアマネジメント戦略と組織体制の構築** ⑧
 - ・ネット商業の成長を踏まえて実店舗のサービス革新や実店舗の戦略的配置誘導
 - ・公共空間の整備とその場所を活用したイベントなどの企画運営
- + 「城下町回遊路」に沿って、**由緒のある場所に纏わる物語の紹介、特に多言語による紹介を充実**する ⑤

4. 世界に拓く「城下町都市」の実現に向けた7つの戦略プロジェクト

都市圏交通網強化プロジェクト

関連施策 ①①②⑤

公共施設用地利活用推進プロジェクト

関連施策 ④⑭

若者や外国人材の活躍と定住促進プロジェクト

関連施策 ⑧⑨⑩⑪

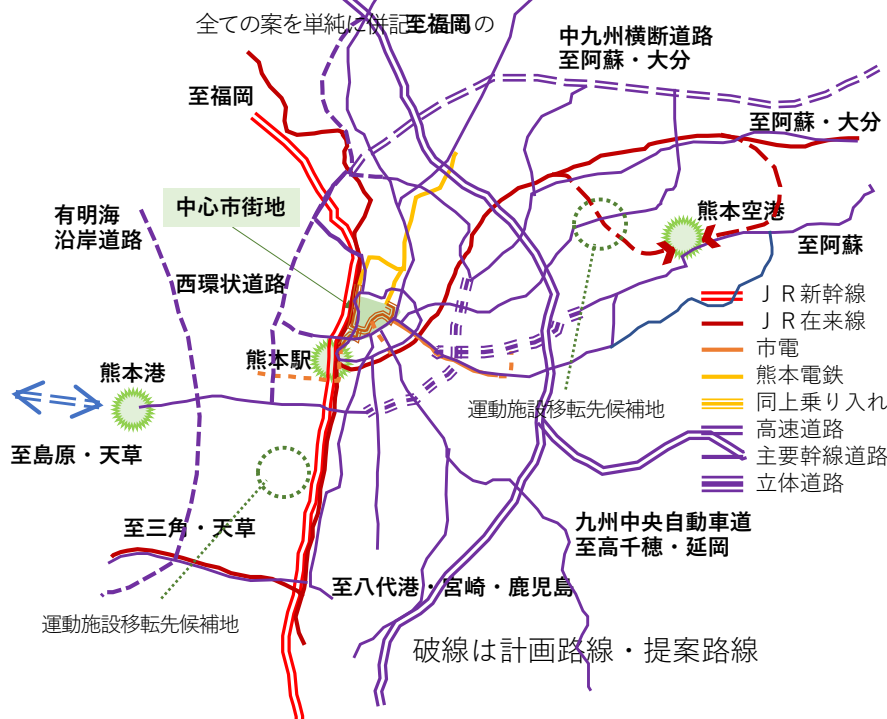
●プロジェクトの狙い

陸海空の都市ゲートの機能を強化する。少人数の旅行客でも便利に移動できるよう、また都市圏住民が中心市街地の高度なサービスを身近に利用できるよう、**中心市街地内外を結ぶ安全安心快適な公共交通網**を強化する。

●主要な施策や事業の提案

- + 熊本空港ターミナルや八代港クルーズ船ターミナル、熊本駅ビル等、**民の力を活かして都市ゲートの広域機能を強化する**。熊本城域と都心部における**大型観光バス用の乗降場や駐車場を整備する ①**
- + 鉄軌道の熊本空港乗り入れや空港道路及び東バイパス等の一部区間立体化により、**空港と中心市街地間のアクセスを強化する ①**
- + **市電の延伸や熊電の市電路線乗り入れを進める**。30年代には普及が見込まれる**自動運転バス網**などを整備し、**人に優しい都市圏の移動環境**を実現する ①
- + **中九州横断道や九州中央自動車道の開通を促進**する。デマンド型サービスや自動運転などの新技術を積極的に活用し、**県内や九州各地の観光地、世界遺産等を結ぶ安全で便利な交通サービスの充実**を図る ②
- + 通町筋、桜町、熊本駅周辺に位置する交通結節点や商業集積相互、さらにはそれらと熊本城域・新町古町などを結ぶ「**城下町都市回遊路**」を設定し、それに沿った回遊を助ける**新しい交通手段を整備する ⑤**
 - ・都心エリアと副都心エリアを結ぶ交通手段として新たにデマンド式シャトルバスを導入
 - ・そのほかのエリアにはシェア自転車や乗合タクシーなどの小型移動支援サービス、白川や坪井川を利用した水上交通などの導入を図る

図 5-1 想定される公共交通の整備路線 (破線)



●プロジェクトの狙い

中心市街地内外の公共施設等について、経済社会ニーズの変化を捉えると共に、都市経営の観点から、**施設等の移転再配置を検討し、政令市に相応しいサービス提供とくまもとのブランド力強化**を図る。

●主要な施策や事業の提案

- + 熊本城域内から**移転が進む施設用地**を、熊本の**歴史・文化・芸術の展示学習・体験施設**として整備する ④
 - 再掲 (歴史回廊整備プロジェクト参照)
- + **藤崎台野球場は移転**により県都に相応しい施設として整備する。跡地は熊本城域における敷地条件に相応しい形で活用する ⑭
 - 再掲 (歴史回廊整備プロジェクト参照)
- + **熊本城域内の大規模駐車場用地、城彩苑用地等**も活用策や利用継続の在り方を検討する ④
- + **水前寺陸上競技場、熊本競輪場、水前寺野球場、熊本武道館、熊本県立劇場**等についても、その移転再配置を促進し、**県都の施設に相応しい機能を強化**する。その跡地は立地条件を踏まえて新たな施設導入や周辺市街地整備に活用を図る ⑭



●プロジェクトの狙い

長期にわたる熊本城の復旧事業を伝統技術の習得に活かす、観光ビジネスの開拓や商業業務サービスのIT化など**地域課題解決への参加を促す**、空き床など活動の場を提供する、**大学や研究機関と連携**するなど、**地元が保有する機会や資産を活かして、意欲的な若者や外国人材等の活躍の場を提供し、地元への定住を促進**する。

●主要な施策や事業の提案

- + **創造的活動や新しいビジネスに挑む若者や外国人材等の活動をハード・ソフトの両面から支援する体制を強化する ⑩⑧⑨**
 - 再掲 (白川沿い定住エリア整備プロジェクト/滞在型都市観光強化プロジェクト参照)
 - ・建物の空き床や駐車場跡地などを活用した、共同工房・アトリエ・シェアオフィスなどの整備を誘導
 - ・起業支援サービス、人と技術のマッチング、地元企業や地元社会が抱える課題解決に向けた創発ワークショップ開催など、各種支援プログラムを提供
 - ・ネット商業の成長を踏まえて実店舗のサービス革新や実店舗の戦略的配置誘導
 - ・公共空間の整備とその場所を活用したイベントなどの企画運営
 - ・夜間観光プログラムの充実、くまもとの食文化のブランド化、
 - ・宿泊・物販・飲食・旅行・交通の業際的連携強化、農水産業や流通業などと連携したビジネスモデルの開発など観光産業のすそ野の拡大
- + **ミレニアル世代や共働き世帯、高齢世帯、大学生や外国人研究者など、まちなか志向の居住者が、それぞれ自分のスタイルで働きながら暮らせる「スマート・コミュニティ」のモデル事業を誘導する ⑪**
 - 再掲 (白川沿い定住エリア整備プロジェクト参照)
 - ・家族用住宅、単身世帯用住宅、シェアハウス、長期滞在型ホテルなど、多様な形式の住居と共に、買物、食事、保育、家事支援、趣味やスポーツ施設などのコミュニティサービス (ビジネス) の場も併せて整備
- + **インターナショナルスクールや外国人材とその家族のための日本語化学習プログラムを整備**する
 - ・熊本城域という地の利や交通アクセスを活かせる場所に、九州全域から生徒を集めるようなインターナショナルスクールを誘致